

【新規設定コース】

技能・技術実践研修カリキュラム

※記載内容は変更となる場合があります

コース番号	コース名	期 間	定員	日数
G2	技能分析結果に基づく指導法設計と実践（SAS応用）	応相談	10	2
開催会場	職業能力開発総合大学校又は受講者訓練施設	技能・技術分野	共通	
		技能・技術レベル	—	
		技能・技術要素	—	
研修のねらい及び到達目標	本研修は、技能分析スタジオ（SAS）等により得られた分析結果をもとに、技能構造を指導法として再構成し、競技力向上に直結する指導体系を設計・実装できる能力の習得を目的とする。分析結果の理解にとどまらず、指導・訓練・評価を一体として扱い、現場で再現可能な指導力の獲得を目指す。			
最低限必要な知識	技能分析の基礎的理解を有することが望ましい。			
研 修 内 容	項 目（予 定）		講義	実技・演習
	1. 技能分析結果の理解と課題抽出 (1) 技能構造の再整理：動作・認知・判断の分解 (2) 分析データの解釈：視線・動作・運動の意味付け (3) 誤りの構造化：再現性と原因の特定 (4) 指導優先順位の決定：影響度と改善効果		3 H	2 H
	2. 指導要素の抽出と体系化 (1) 指導対象の明確化：どこを変えるか (2) 技能の分解と統合：部分技能と全体構造 (3) 熟達構造の理解：段階的発達モデル (4) 指導ポイントの言語化：再現可能な表現		2 H	
	3. 指導法および訓練設計 (1) 指導モデルの構築：分析結果の指導への変換 (2) 訓練課題設計：具体的練習への展開 (3) 段階的指導：初級から上級への発展構造 (4) 負荷設計：時間・精度・認知負荷の制御		3 H	
	4. 訓練の実装と最適化 (1) 訓練構成：単一技能訓練と統合訓練 (2) 再現性訓練：品質の安定化 (3) 個別最適化：選手特性への対応 (4) 現場改善：実施結果に基づく修正		2 H	
	5. 評価とフィードバックの設計（2H） (1) 評価指標の設定：定量・定性評価 (2) プロセス評価：動作・判断の評価 (3) フィードバック設計：即時および段階的改善 (4) 評価と指導の統合：改善サイクルの構築		2 H	
		10 H	2 H	
リニューアルの概要及びアピールポイント	本研修は、技能分析結果を指導に活かす段階からさらに発展させ、分析・指導・訓練・評価を一体化した指導体系を構築する点に特徴がある。技能を分解して理解するだけでなく、それを再現可能な指導法へ変換し、訓練として実装し、評価によって改善する一連のプロセスを実践的に習得できる構成としている。			
研修成果が活用できる職務	職務 1	職務 2	職務の内容	
担当教員（ユニット）	教授 菊池 拓男 助教 高橋隆宜			
使用する機器等				
受講者が用意するテキスト（予定）				